『木造建築物の基本講座（１）』講習会（2023/4/27）

質疑への回答

この度は講習後のアンケートへのご協力ありがとうございました。
大変多くのご意見いただきありがとうございました。熱心なご質問、ご感想頂き主催者、講師共に感謝いたしております。
アンケートにいただいておりました質問への回答をさせていただきます。
※いただいている感想は省略させていただいておりますのでご容赦ください。

・内容に厚みがあるので、２時間半で話し終えるために速足になったと感じる。
→お聞き苦しいところあり申し訳ありませんでした。今後の開催に向けた改善事項として参考とさせていただきます。

・徹底的に復習しなければ、山中氏レベルにはなれないだろうと痛感した。
→どこまでの知識取得が必須であるかは皆さん次第であると思います。ただ、講師が専門家として必要と思う部分を取り上げさせていただきました。

・法改正後は、構造設計者に依頼することになりそうに思いました。
→法改正の確定情報は本年度の秋頃に公表が予定されていますので、今回の講習会の内容が確定したものではないことを合わせてご承知願います。

・伝統的構法等に関する規定において ZEH 水準の建築物とは、伝統的構法の建物に ZEH 水準による荷重付加された場合のみ適用となると考えたのでよろしいでしょうか？
→国が定めている基準の詳細は一部を除き公開されていませんので正確にはお答えできませんが、お見込みの方向で示されていると考えられます。ただ、各々の建築士が同じ仕様で設計するわけではないので詳細法があります。簡易法は限りなく荷重条件として不利な条件を採用していると思います。
伝統的構法では、気候風土住宅の適用条件がそろえば省エネ義務（ZEH 等水準）から除外される扱いも改正情報では含まれている様子ですので、除外となる場合は実情に応じた荷重での計算で構わないと思われます。
講習終盤でご紹介した計算実例は、伝統的構法の実荷重を算出していますが ZEH 等水準の仕様ではないですのでご注意ください。

・お話の中に出てきたお勧めの参考図書を再度リストにして頂く事は可能でしょうか。
→以下に代表的な図書を上げさせていただきました。
○「2020 年版 建築物の構造関係技術基準解説書」（通称：黄色本）【日本建築防災協会】
○木造軸組構法住宅の構造計画　耐震・耐風性向上のための壁量計算等の基礎的な解説・演習から告示の最新情報まで（第２版２刷）【日本住宅・木材技術センター】
○木造住宅建築確認申請用等の構造標準納まり図（CD 販売　A3 判 17 枚）
【日本住宅・木材技術センター】
○ひとりで学べる住宅基礎の構造設計演習帳【日本建築センター】
○ひとりで学べる木造の壁量設計演習帳【日本建築センター】
※他にも多くの図書がありますが、山辺先生、山田先生等の図書は基準法の最低基準というまとめ方でない為に、内容は素晴らしいですが候補から外しております。（講師はとても参考にしています）

・もっと聞きたい部分がありましたが、時間が不足している印象を受けました。
　→今後の開催に向けた改善事項として参考とさせていただきます。